

人権学習指導資料等活用のための講座（12月） 報告

2023（令和5）年12月に、人権学習指導資料等活用のための講座を実施しました。

今回の講座は『気づく つながる つくりだす』や『みんなのひろば』を活用した具体的な取組について、2校から報告していただきました。人権学習指導資料を活用した学習のポイントや流れ、子どもたちの反応等をもとに、グループワークを通して、学んだことや今後活かしたいこと等について考え合い、各校での具体的な取組につながる講座となりました。

この講座は、三重県人権センターでの集合型研修とオンライン型研修を組み合わせた形式で実施しました。以下、講座の概要を報告します。

12月26日（火） 13：30～16：30

《話題提供1》

『気づく つながる つくりだす』性のありかた いろいろ
『みんなのひろば』（小学校高学年）女性のイメージ、男性のイメージ

樋口 寛晃 さん（三重県立川越高等学校）



《話題提供2》

『みんなのひろば』（小学校高学年）全国水平社の創立

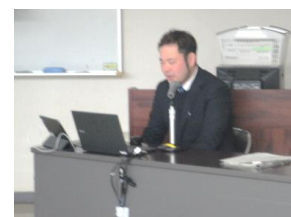
本田 陽祐 さん・橋本 淳平 さん（松阪市立中川小学校）



川越高校の樋口さんからは、人権アンケートや子どもたちが日頃から感じている性別役割分担意識から、女性の人権をテーマに設定し、『気づく つながる つくりだす』や『みんなのひろば』（高学年）を活用した取組を報告していただきました。

学習展開例を子どもたちの実態に合わせてアレンジし、性別役割分担意識を自分に関係のあることとして捉えさせようと取り組んだことや、日本や三重県の現状に課題意識を持たせようと出会い学習を行ったこと、今回の学びを「総合的な探究の時間」の学習につなげていくこと等をお話しいただきました。

これらの報告をもとに、グループワークでは、自らの気づきや経験、子どもたちと学び合いたいこと等、



意見交換を行いました。

中川小学校の本田さん、橋本さんからは、『みんなのひろば』（小学校高学年）を活用し、部落問題に関する学習について取組を行った報告をしていただきました。



はじめに橋本さんから、昨年度「なかまづくり」「人権学習」「学力・進路保障」の3つの柱を設定し取り組んだ人権教育研究推進事業において嬉野中学校区及び中川小学校と第6学年の取組概要の説明をいただきました。その後、本田さんから、指導資料を用いた具体的な取組のお話をいただきました。本田さんは、教育的に不利な環境のもとにある子ども（以下、A）を焦点を当てて、学習展開例「全国水平社の創立」を活用した授業を設定されました。自分の思いを友だちに話すことにためらいを感じているAに「自分のことを話していいんだ」「話すことで少し楽になれる」という実感を持たせたいと考え、取組を進めたと話されました。

グループワークでは、学習展開例を活用した授業展開や、Aをはじめとした子どもたちの感想、保護者から子どもに向けてコメントを書いてもらう活動等の報告をもとに意見を交流しました。

また、2校の報告では、どちらも学習計画に「出会い学習」が位置づけられていたことから、計画的な学習を進めるために、「出会い学習」の意義や、効果を高めるポイント等を参加者と一緒に考え合いました。



【参加者アンケートより】

《話題提供1》

- 小学生対象の人権学習指導資料『みんなのひろば』（小学校高学年）をうまく活用して高校生に「自分事」としてとらえやすくしているところが素晴らしいと思いました。また、事前にフォームでアンケートをとり、それをもとに子どもたちが理解しやすいように展開しているところも見習いたいと思いました。また、「総合的な探究の時間」につなげている取組を、更に詳しく知りたいと思いました。

- 人権学習指導資料『気づく つながる つくりだす』の資料を活用するには、子どもをどれだけ理解できているのか、子どもに何を学ばせるのか等を考え、子どもの実態に応じてアレンジし取り組むことが大切であることを学び、自分の実践を見直す良い機会となりました。

○性別役割分担意識について、自分自身の中にも根付いているものがあるなど反省しました。日常生活の中で、習慣的に発してしまっている性差別となるような発言は、きっと自覚しているよりも多い気がしました。まずは、発する言葉（語彙）に気をつけようと思いました。

○人権学習を「講師との出会い学習」だけで終わらせたり、内容を講師に任せっきりにしたりしてはいけないと改めて実感できました。事前の子どもの意識の把握や綿密な打ち合わせ等、大切にしなければならない点について、具体的な子どもの様子を交えて、取組方法を紹介していただけたので、出会い学習に取り組むときの進め方をイメージしやすくなりました。

《話題提供2》

○自分もこれまでに『みんなのひろば』を活用して部落問題を解決するための学習に取り組んだことがあります。講師の話や教材、友だちの話を自分と重ねさせること等、部落問題を自分事にすることがポイントと感じています。今日の実践報告を聞かせていただいて、自分と重ねさせるための方法の1つとして、「自分はどうありたいか」を考えさせることが大事だと感じました。

○学校、家庭、社会の事情でしんどい思いを抱えている子どもは、私たち教職員が見ようとしなければ見えてこないのだと思います。子どもや保護者と関わり、子どもが見せる姿の背景にあるものをつかみ、子どもにどうなっていってほしいのか、どんな力をつける必要があるのか等を明確にしていくことが大切であると学びました。

○子どもたちの学びを発信し、家庭との共通理解を図っていることが素晴らしいと思いました。保護者にコメントをワークシートに書いてもらうことで、家庭への人権啓発にもなります。何より保護者の協力を得るためには、家庭訪問等を通じた信頼関係づくりが必要不可欠であるため、取組の背後に先生方の並々ならぬ努力があると感じました。

○西光万吉さんや田中松月さんが自分の思いを分かり合える仲間と出会う水平社創立の学習を通し、自分の思いを出しにくかった子どもと親が分かり合えるようになっていった実践を、見習いたいと思いました。子どもたちの実態をふまえた学習にしていくためには、さまざまなことに留意しないといけないのですが、どのような資料があるか、どのような実践があるか等を幅広く知っていることもとても大切だと思いました。そのような点で「人権学習指導資料」を職場の先生方にもっと広めたいと思います。

